

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670400229		
法人名	有限会社 中川開発		
事業所名	グループホーム阿南向日葵		
所在地	徳島県阿南市日開野町筒路10-1		
自己評価作成日	平成29年12月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成30年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全員が利用者と家族の思いをくみ取れるような介護や生活支援をめざし、目標に向け施設内外の研修に参加したり、資格取得に向け研鑽している。家族会の開催などで家族や地域住民の方たちとも合同で集える機会を設けたりと、この地域で暮らす人々と認識してもらえるよう運営している。事業所周辺にはショッピングセンターや様々な店舗が立ち並ぶ反面、田んぼも点在しており、情緒豊かな暮らしを送ることが出来る。事業所内の畑には、利用者と一緒に種まきや苗を植え野菜を作っています。採った野菜は食事に使ったり近所や家族におすそ分けをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、大型ショッピングセンターや多くの商店が混在する市街地に位置している。周辺は人や車の往来が頻繁なところではあるが、事業所内は、ゆったりと落ち着いた雰囲気があり、大きな窓からは暖かい日差しが入り、外の野菜畑では、職員と利用者が季節の野菜を育てている。代表者、職員共に、理念である「希望・笑顔・思い」を常に心に刻み、利用者の思いに沿った心豊かな暮らしが継続できるよう、検討を重ねながら支援している。また、事業所は、積極的に地域との関係づくりに努め、事業所の年中行事や防災訓練などの機会には、地域からの様々な協力を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年全職員で理念の再構築を行い、介護者の判断や考え方を常に照らし合わせながら実践している。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を掲げている。職員間で理念を共有して、常に確認したり見直しを行ったりして、日々のケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所と近隣住民、利用者や地域住民の日頃の交流はもとより、君臨のスーパーや、行きつけの美容室なども、今までの生活が途切れることのないようにしている。	事業所は、地域の一員として積極的に関係づくりに努めている。地域住民から行事への協力の申し入れや介護に関する相談が持ち込まれるなど、日常的に気軽に話し合える関係を構築している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会や事業所のイベントを通じて地域の方々とも認知症にまつわる事、一般の方にも出来る事、また事業所が地域に対してできることや、した事を伝え少し簡地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の実態を具体的に説明しいいいからの意見を参考にしている。また事業所からの提案なども掲げ、地域と共に地域づくりの礎となるよう努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、利用者と家族、市関係者や地域住民、複数の有識者や職員など幅広い参加者を得ている。会議で出された意見は、事業所の運営面に反映するよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営に関する疑問や、提案など運営推進会議や市役所に訪れた際にやり取りし風通しのよい関係になれるよう努めている。	職員は、毎月の現況報告書などで、市担当者や直接、話をしている。その際に、日頃の事業所の状況を伝えるなどして協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会や申し送り等で拘束のないケアを学び共有し、工夫しながらより良いサービスに努めている。	身体拘束の具体的な内容の理解や弊害について研修会を事業所の中で実施し、職員の共有認識を図っている。職員間で言葉かけや接遇について、確認や振り返りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法の勉強会はもとより時折報道などで耳にする事例なども参考に、常に相手がどう思うか、その人にとって虐待や嫌な気持ちにさせていないかと常に考えて言動できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んだり、地域包括や社協にも相談したりしながら該当利用者への支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を持って契約を締結している。また改定時は家族会、広報などでも説明し、疑問が残らない様、同意ももっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の苦情相談体制及び外部の相談機関を説明している。面会時に利用者の近況報告をしている。	家族の来訪時には、職員から利用者の様子を伝えるなどして、話しやすい雰囲気づくりに努めている。また、事業所では家族会を開催して利用者家族の意見や希望を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会で運営者と職員が相談したり、話し合う場を設け、業務に反映している。	代表者は、日頃の業務を通じて職員の意向を把握することに努めている。毎月、開催する職員会議において、運営面や支援に関する意見等を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護報酬の減額も度重なり、事業者として厳しくなってきたが、給与水準等の見直しを行い、やりがい、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の職員会にて勉強会をしたり、最低限基礎的な研修として、認知症実践者研修は受講必須とし、その他の外部研修にも参加しながら研鑽している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やネットワークを利用し他施設との情報交換の場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族と面会し不安や要望等を傾聴し、家族からも細かな情報を収集し、本人の思いを理解し、安心して生活して頂けるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が事業所を見学したり、要望や悩みを受け止め、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様や本人の身になって一緒に考え、今できることや、してあげたい事を他の事業所利用なども提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今まで生きてきた、本人の人生を受け止め、尊厳を損なわないよう自立を目指し共に過ごす。相手として互いに支えあえる関係を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の力も借りながら本人様の思いをくみ取り、家族会等のイベントを通じて家族同士の交流をもってもらったりして事業所と共に歩んでもらえるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの習慣や馴染みの人や場所の把握に努め、関係が途切れないよう協力体制を作り支援している。	職員は、利用者の馴染みの理・美容院や商店への外出を支援している。また、利用者のこれまでの生活習慣を大切に捉え、一人ひとりの要望に応えることができるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人様の生活リズムを尊重したうえで共同生活の中でお互いの関わりが生まれるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近辺に利用者家族も点在しており、利用終了後も、運営推進会議やイベントに参加してもらい、その家族の置かれている状況などに相談にのったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の希望や要望をくみ取り、実践できるように努めている。研修の一環として、事例検討なども行いニーズの把握に努めている。	日頃から職員は、利用者との関わりのなかで、一人ひとりの言葉や表情から想いや意向の把握に努めている。また、職員間で共有できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人様や家族から、これまでの生活習慣や生活歴などを収集しホームでも維持できるよう、またこれからの生活への希望も把握し支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の記録にその日の状態がわかるように記入し、申し送り時にも伝達している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、職員会で担当職員を中心とし、ケアの提供状況や本人様の課題を出し合い、関係者を含めた介護計画の作成に努めている。	事業所では、本人や利用者や家族、関係者などで話し合い、その人らしい暮らしを続けるための介護計画を作成している。アセスメントとモニタリングを繰り返し行い、現状に応じた計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の記入や業務日誌にも特記事項を記入し、全員が見れるよう工夫し、介護計画にも反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の自宅に行けない家族の代わりに職員が代行したり、妻を探して落ち着いた利用者には、妻に協力してもらい一緒に食事をしてもらう等、家族と共に本人と家族を支える支援をしている。		

自己	外部	項目	2F	
			自己評価 実践状況	外部評価 実践状況
			外部評価 次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の身近な資源、家族との交流を大切にし、今まで触れていた店、友人等と継続的に触れ合えるよう調整している。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には事業所の主治医をメインとして入居時の健康診断時に本人、家族と主治医の信頼関係がつかれるよう配慮し往診時の指示等も家族に伝えている又、他の医療機関を希望する際も対応している。	契約時の段階で、利用者一人ひとりのかかりつけ医に関する希望を聞いている。週一回、協力医療機関による往診がある。また、家族の協力を得て、従前からのかかりつけ医の受診を支援している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	可能な限り看護師を配置し、日常の体調管理や急変時の対応などでも連携をとっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者、職員、看護師が主治医への連絡や入院。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から終末期を考慮した話を家族とも行う。状態の変化に応じて家族と本人がホームでの看取りに関してもその時その時に応じ、できることできないことを明確にし家族と共に取り組んでいる。	契約時の段階で、事業所のできることを説明している。その際に、本人や家族と話しあい、意向に添った終末期を迎えることができるよう支援している。利用者一人ひとりが安心して納得した最後を迎えることができるよう、家族と相談しながら支援に取り組んでいる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを整備し職員会議等で対応方法の訓練をしているが十分でないこともある。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月11日を防災の日とし災害時に備えた訓練や勉強会を行っている。また、消防署からの火災消火訓練等もやっている。	事業所では、毎月11日を防災の日として、災害に備えた訓練や勉強会を行っている。また、近隣住民とともに避難訓練を行ったり、消防署の協力を得て火災訓練、夜間想定など訓練を実施したりしている。災害の発生時に備え、食料や飲料水、物品などの備蓄をしている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみの中にもその人を尊重し、なれ合いにならないように心掛けています。	職員は、利用者一人ひとりを尊重した支援を心がけている。代表者と職員がともに勉強会に参加し、利用者尊厳やプライバシーについて話しあっている。また、利用者へのケアや声かけに注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活の中で本人様が自分からしたい事や、継続していきたい事に、寄り添い支援していけるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、その人に合った自発的な活動が、引き出せるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室等利用したり、衣類にも季節ごとに衣替えをし、本人様に合わせた支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に畑で収穫したり、収穫したものをせいらくしたり、食器拭きまで一緒に行うことで共同生活での役割ができるよう支援している。	事業所では、利用者と職員で食卓を囲み、会話を楽しみつつ食事をとっている。時には、事業所の庭で収穫した野菜が食卓にのぼることもあり、楽しみの一つになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食事、水分摂取量をチェックし少ない場合は、栄養補助食品等で多めに飲食できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別に口腔ケアをしており月1回訪問歯科検診で、口腔ケアや治療も行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄状況を把握し必要に応じて、声掛けや誘導、介助を行っている。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。職員は、利用者の排泄チェック表を活用して、トイレへの誘導を行い、自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やこまめな水分補給や簡単な運動を心掛け、便秘傾向にある利用者には緩下剤を処方してもらい対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は設定しているが、希望に応じて対応している。入浴を拒否される方には声掛けの工夫やタイミングも考慮し、安心して入浴して頂けるよう努めている。	事業所では、入浴は週2回、午後の時間帯に実施している。入浴を拒む利用者には、職員が交代したり、時間帯をずらして声かけを行ったりすることで、納得して入浴ができるように努めている。また、足浴で体を温めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息は希望や、体調に合わせて自室で休んで頂いている。夜間も安眠できるような様子をみながらトイレ介助も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医に状態報告することで、薬の効能等も把握できるようにしており、服薬状況や症状の変化も申し送りや記録で把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族会、お誕生会、季節のイベント、外出等で楽しく生活できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気のいい日は外出したり、ドライブに出かけたり、外食に出かけたりお正月等外泊もして頂き、家族様の協力も得ながら支援している。	事業所では、利用者の状態に応じて、車いすも利用しながら、事業所周辺を散歩している。庭の畑の手入れや水やりなどを行って、外気にふれる機会を作っている。気候の良い時には、懐かしい場所へドライブしたり、桜や菖蒲など花見学に出かけたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	しっかりして自己管理の出来る方は、自ら財布を持ち買い物にも出かけている。管理の難しい方は、預かり金を管理し本人様が希望される物を購入できるように対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様への電話の取りつぎや、本人が希望するときには対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節がわかるような催し物や花を飾ったり、光や温度にも配慮し、居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	共用空間であるリビングは明るい日差しが差し込む空間となっている。利用者と職員による玄関の生け花や壁の掲示物で、季節を感じるができるように工夫している。また、廊下やトイレなどの掃除が行き届いており清潔な環境を保持している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外に各自が状況に応じて自由に動けるよう、居場所作りに努めている。又、利用者同士の関係が深まるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段自宅で使用していた布団、食器、家具等、持ち込んでもらい心地よい部屋になるよう努めている。	居室には、利用者一人ひとりの使い慣れた家具や大切にしている家族の写真などの思い出の品を持ち込んでもらって、その人らしく暮らせる居室づくりになるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや、ナースコール、居室の表札、トイレ等の整備はもとより、個々に合った介護用品を使用し、残存機能の維持や向上に配慮している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1F 実践状況	実践状況	実践状況
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を皆が理解し、利用者が気持ちよく過ごせるように支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベントの時は参加して頂き、話をしながら食事をする時がある。散歩や買い物でも交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々を招き、に致傷についての相談ができアドバイスができる場を開設している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月1回行っている職員会議等では一人一人の考えや提案を出し合い、業務の質を向上できるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村からの講演依頼などがあれば積極的に参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間にて正しく拘束しないケアの基準を学び共有し工夫しながらよりよい介護に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や申し送り意見交換を話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1F 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者がいるので司法書士や地域包括支援センターと連携を図って支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者が十分に説明し、同意を得て契約をしている。改定などが合った際には、家族会や面会時、広報で説明したりし理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会などで伝えられた要望は記録を残し、申し送りなどで話し合い、対応できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や申し送りなどで意見を出し合って反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業主より職員会議等で職場環境の向上に向けての説明や話し合いがされたり、イベント後の慰労の配慮もして下さっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の意欲に考慮して研修へ参加している。研修内容を皆が共有できるよう、職員会議などで話し合っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やネットワークを利用し、他施設との情報交換の場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1F 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族と面会し不安や要望などを傾聴し対応している。家族から細かな情報収集をし、本人の思いを理解して安心して頂けるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約までに家族が事業所を見学したり、要望や悩みを受け止め、理解しあえる関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、利用者の身になって一緒に考えられること、してあげたいことを他のサービスも含め考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	大切な1日1日を家族のようにお互いが支えあう関係を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サマリーを通じて家族会等に参加して頂きその時に、本人様の近況や思いを伝えたり、家族様との交流を大切にしながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に協力して頂きながら、本人様の馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように皆で一緒に楽しめるようなレクリエーションを提供したり、充実した1日を送れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1F 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了し、新しいサービスを受ける際には、家族や関係者に報告し、その後も相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の要望や本人に寄り添いながら希望意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には本人と家族から今までの生活状況や生活歴などを収集し、ホームでも維持し今後の生活のニーズも把握し支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録などに記入し、申し送りの時に共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや職員会議でケアの提供状況や本人の課題を出し合い関係者を含めた介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、業務日誌等に詳細を記入し、申し送りやカンファレンス等にて情報を共有し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の自宅に行けない家族の代わりに職員が代行したり、妻を探して落ち着かない入居者には妻に協力して頂き、一緒にいる時間を作って家族と本人を支える支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1F 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の身近な資源、家族との交流を大切にし今まで行きなれた店、友人等と接するようになる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に事業所の主治医をメインとし、入居時の健康診断時に本人や家族に主治医の信頼、関係が作れるようにしている。往診時の指示を家族にも伝えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	可能な限り看護師を配置し、日常の体調管理や急変時の対応などでも連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者、職員、看護師が主治医への連絡や入院時の情報提供、早期退院に向けて連絡調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から終末期を考慮した話を家族とも行い状態に応じて取り組んでいる。家族と本人が望む姿を考え看取りに関しても、できることとできないことを家族と共に明確にしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを整備し、職員会議等で対応方法の訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月11日を防災の日とし訓練や勉強会を行っている。家族会にて地域住民と共に協力し合う関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1F 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	専門性と慣れの違いを認識しながら一人一人の尊厳を大切に言葉がけをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活の中で自己決定が養われるように寄り添い声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが自発的な活動を引き出せるような対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの理美容室を利用したり、衣類その他本人の嗜好に合わせた支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生会等ご本人のお好きなものを聴き提供しています。お好み焼きやホットケーキを職員と共に作っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量を記入し全員で共有し少ない場合は栄養補助食品や水分補給の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個別に口腔ケアをしており、月1回の歯科医師による訪問検診でケアをしてもらい清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1F 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立支援の為、排泄チェック表で排泄状況を把握しながら必要に応じ対応支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べやすく野菜したりこまめな水分補給を心掛け必要に応じ緩下剤を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は設定していますが、清潔保持のためにも体調を考慮しながら安心して入ってもらえるように工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	に中の過ごし方にも気を配り、個々に合わせて支援し休息して頂きながら安眠の為にトイレのタイミング等を工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医に状況報告をすることで薬の効能等も把握するようしており、服薬状況や症状の変化も申し送りや記録で把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の全員参加のイベントや個々の生活習慣や思い付きの要望などにも応えられるよう、また活気を持って頂けるようにも支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブなどの日常的な外出や家族の協力による飲食店への外食、また外泊などの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1F 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの利用者は金銭管理が難しくなっていますが、小遣い程度の預り金を管理し、利用者が欲するものを購入できるよう家族に同意をもらい対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者への電話の取り次ぎや本人がかけたいときに職員がかけたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に対応した花や催しもので環境づくりや光や温度にも配慮し居心地良く過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席以外に各人が状況に応じて自由に行動できるよう居場所づくりに努めている。又利用者同士の関係が深まるような支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が慣れ親しんだ日用品や家具等を持ち込んでもらい、安心して心地よい空間を提供できるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全確保のため、手すりやナースコール、トイレ、居室の表札の整備はもとより、個々に合わせた介護用品を使用し残存機能の維持や向上に配慮している。		